

「8時15分」ヒロシマのあの時を展示

本日4日午前11時30分、区役所では一般社団法人フォーギブネス・フロム・ヒロシマから、書籍「8時15分—ヒロシマで生きぬいて許す心」(美甘章子著・講談社エディトリアル)の贈呈式が行われました。寄贈された本は、120冊で区立小中学校の学校図書館に置かれるほか、区役所で行われている平和パネル展でも展示されています。

杉並区は、原水爆禁止運動の発祥の地として知られています。昭和29年3月1日、太平洋ビキニ環礁でアメリカの水爆実験が行われ、近くで操業をしていたマグロ漁船第五福竜丸が被爆しました。この事件では、食の安全を心配した区内の魚商協同組合や婦人団体、PTA協議会などが中心になって、「水爆禁止署名運動杉並協議会」が結成され、その運動はやがて全国に広がっていきました。

一般社団法人フォーギブネス・フロム・ヒロシマ(代表:二宮かおるさん)では、こうした運動の発祥の地である杉並の子どもたちに、原爆が初めて使用されたヒロシマで、原爆投下の8時15分に何が起き、何を失ったのか。そんなことを記した「8時15分—ヒロシマで生きぬいて許す心」を読んでもらい、世界の平和を第一に考える人材になってほしいと考え、今回の120冊の寄贈を決めました。

本の作者、^{みかもあきこ}美甘章子さんは1961年生まれ。1945年8月6日8時15分に、父親が爆心地から1200mしか離れていない自宅で被爆。多くの方が生きることをあきらめる中、最後まであきらめず戦後生きぬいた、その半生を記したものです。両親とも被爆者であるため、幼い頃から原爆が人の命だけでなく生きる気力を奪い、怒りと絶望をもたらすこと。そうした戦争や原爆と向き合ってきた著者のヒロシマに対する想いが詰め込まれた作品になっています。



代表の二宮さんと著者の美甘さんは、同郷の同級生の関係で、この本が出版されたことで、同級生の両親が多くの苦勞をしてきたことを知り、原爆の恐ろしさを再認識しました。ぜひ多くの方にも読んでもらいたいと話していました。区役所ロビーでは、ヒロシマに原爆が投下された8月6日に合わせて、毎年平和パネル展を開催しています。本日、寄贈を受けた本も、パネル展に展示し、来場者が手に取っていました。また、今後は区立小中学校64校の図書室にも納められることになっています。

【報道機関 問い合わせ先】

教育委員会事務局庶務課 : TEL : 3312-2111 内線1601